

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料5

令和 3年 1月 日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 山形市役所(六角・荒砥)長井線 (山形市～長井市)	・地域連携DMOとの連携による旅行商品の造成。フラワー長井線との企画乗車券を作成。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・「長井・白鷹⇄山形」の往復乗車券と「フラワー長井線」の1日乗車券、道の駅「川のみなと長井」でのお買い物券をセットにした企画乗車券を作成。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:5.9回→実績:5.9回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:20.6人→実績:14.7人 ■達成状況 通勤・通学利用者が多く新型コロナウイルスの影響による休校措置等により想定より利用者が減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・今後も観光地と連携した商品の制作及び販売を継続・強化し、通勤通学客以外(朝夕以外の利用者)の拡大を目指していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 山交ビル(荒谷・石倉)天童線 (山形市～天童市)	・前年度に引き続き、路線見直しを検討するとともに乗降調査を継続的に行い便数の適正化等により乗車効率の増加を目指す。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤについて見直しを図り定時運行による利便性向上を図った。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:13.5回→実績:13.5回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:52.6人→実績:48.6人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・継続して乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市町村(山形市・天童市)とともに路線維持に向けた取組みを推進していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 県立中央病院(表蔵王・四ツ谷)高松葉山線 (山形市～上山市)	・スポーツセンターの利用者に対しバス利用促進のためのPRの実施。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・スポーツセンター・県立中央病院のほか沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。 ・スポーツセンターホームページのバス利用アクセス案内について、時刻表・地図を掲載するなどの改修を依頼。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:6.6回→実績:6.6回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:26.4人→実績:23.7人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・山形と上山を結ぶ10系統について、統廃合も視野に入れて乗降調査を継続していく。 ・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 山形(若葉町・南山形)高松葉山線 (山形市～上山市)	・乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを推進。 ・沿線の観光施設と連携した取組みの強化。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・利便性向上のため、山形駅での乗降を考慮しダイヤ改正を実施。 ・沿線市町村(山形市・上山市)での利用促進策等の取組みとして、山形市内の病院、スーパー、高校を中心に時刻表を重点的に配布し周知を行った。 ・観光施設等と連携した特典企画商品の作成。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:15.5回→実績:15.5回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:79.0人→実績:62.0人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。 ・沿線の観光施設と連携した取組みを今後も継続していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。

令和 3年 1月 日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 寒河江駅前(松川・左沢)宮宿線 (寒河江市～朝日町)	・高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線(寒河江市・大江町・朝日町)及び近隣市町村とともに取り組む。	【前回の事業評価結果】自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・運賃の改定に向けた取組みを実施。 ・近隣の高校に路線別の時刻表等を配布しPRを行った。 ・沿線市町村と通学支援や高齢者の移動支援に継続して行った。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■運行回数(移動機会の確保) 計画:5.4回→実績:5.4回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:14.5人→実績:14.5人 ■達成状況 運行回数、輸送量とも実績が計画通りであり、目標は達成されている。(路線改編等により、R3計画では輸送量が15人以上になっている)	・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 寒河江駅前～谷地線 (寒河江市～河北町)	・高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線(寒河江市・河北町)及び近隣市町村とともに取り組む。	【前回の事業評価結果】自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。 ・運行遅延の解消のため、路線分断を実施。 ・路線再編と併せて運賃改定を実施。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:11.5回→実績:11.5回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:52.9人→実績:42.5人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 山交ビル～寒河江駅前線 (山形市～寒河江市)	・高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線(山形市・寒河江市・中山町)及び近隣市町村とともに取り組む。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。 ・バス車両2両購入	【前回の事業評価結果】自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・寒河江駅前～谷地線の再編にともない、利便性の向上を図った。 ・乗降の少ない中山町の利用促進のため、中山町との協議を実施。 ・沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:19.4回→実績:19.4回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:60.1人→実績:52.3人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 天童(東根市役所)北町線 (天童市～村山市)	・沿線市町村(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取り組みを継続して推進。	【前回の事業評価結果】自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の高校と協議し、ダイヤ改正を実施。 ・沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:6.9回→実績:6.9回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.9人→実績:12.4人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・今後も沿線市町村(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取り組みを継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。

令和 3年 1月 日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 山交ビル(県立中央病院・高 楯)天童温泉線 (山形市～天童市)	・路線再編に向け天童市と協 議。 ・分かりやすい表示に向けて、 方面記号・行先番号を導入し利 便性向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤの見直しを実施。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実 施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:3.0回→実績:3.0回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:15.0人→実績:6.9人 ■達成状況 運行回数は計画通りであった が、新型コロナウイルスの影響 により輸送量は減少した。目標 未達成のため、取組を継続す る。	・利用者が特定の客層であること からなかなか再編が難しいが、(県 立中央病院及び運転免許セン ター)便数、輸送量が少ない為、路 線のあり方を今後も沿線市町村・ 県と検討していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、 利便性を高める。
山交バス(株) 山交ビル(長岡・漆山)天童温泉 線 (山形市～天童市)	・沿線市町村(山形市・天童市) とともに利用促進策等の取り組 みを継続して推進。 ・分かりやすい表示に向けて、 方面記号・行先番号を導入し利 便性向上を図る。 ・バス車両1両購入	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の病院・スーパー・高校を中 心に路線別時刻表を重点的に配 布しPR等を実施。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実 施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:23.0回→実績:23.0回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:78.2人→実績:59.8人 ■達成状況 運行回数は計画通りであった が、新型コロナウイルスの影響 により輸送量は減少した。目標 未達成のため、取組を継続す る。	・今後も沿線市町村(山形市・天童 市)とともに利用促進策等の取り組 みを継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、 利便性を高める。
山交バス(株) 県立病院～金山線 (新庄市～金山町)	・ゾーン制運賃を継続し、利用 者が減員とならないよう沿線市 町村(金山町・新庄市)と協力し てPR活動を実施。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・通学利用の利便性向上のための 路線再編を実施。 ・金山町に通学定期利用者増のた めの補助を依頼。	A 計画どおり事業は適切に実 施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:9.0回→実績:9.0回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:47.7人→実績:27.9人 ■達成状況 運行回数は計画通りであつた が、新型コロナウイルスの影響 により輸送量は減少した。目 標未達成のため、取組を継続 する。	・今後も沿線市町村(金山町・新庄 市)と協力して利用促進のためのP R活動を継続する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、 利便性を高める。
(株)新庄輸送サービス 県立病院～肘折線 (新庄市～大蔵村)	・貨客混載便の継続 ・観光利用の促進強化	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・貨客混載の実証実験を継続して 実施。 ・肘折温泉～新庄間の往復乗車券 の販売を継続。	A 計画どおり事業は適切に実 施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:5.6回→実績:5.6回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:15.1人→実績:13.4人 ■達成状況 運行回数は計画通りであつたが、 新型コロナウイルスの影響により輸 送量は減少した。目標未達成のた め、取組を継続する。	・貨客混載便は、実証実験から 需要が有り、高齢化や輸送業 の人手不足から益々需要が見 込まれることから、新規の計画 も立案し事業の継続を図る。 ・継続して観光利用の促進強化 を図る。

令和 3年 1月 日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
庄内交通(株) 鶴岡(モール・イオン三川、日本 海病院)酒田線 (鶴岡市～酒田市)	・利用実態及び地域需要に見 合った路線形態の検討。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の各自治体と問題提起を行 い検討を開始。 ・利便性向上のため、バスローケ ーションシステムを導入した。 ・「学生100円バス」を継続して設定 し、高校における利用促進課題研 究授業への協力を行った。	A 計画どおり事業は適切に実 施されている。	A ■運行回数(移動機会の確保) 計画:7.2回→実績:7.2回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.2人→実績:20.8人 ■達成状況 運行回数、輸送量とも実績が 計画を上回っており、目標は達 成されている。	・地域需要に見合った路線形態 を沿線市町と協議し、利便性の 高い路線を目指す。
庄内交通(株) 鶴岡(ゆぼか)羽黒山頂線 (鶴岡市～旧羽黒町)	・利用実態及び地域需要に見 合った路線形態の検討。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の各自治体と問題提起を行 い検討を開始。 ・利便性向上のため、バスローケ ーションシステムを導入した。 ・「学生100円バス」を継続して設定 し、高校における利用促進課題研 究授業への協力を行った。	A 計画どおり事業は適切に実 施されている。	A ■運行回数(移動機会の確保) 計画:6.6回→実績:6.6回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.1人→実績:17.1人 ■達成状況 運行回数、輸送量とも実績が 計画を上回っており、目標は達 成されている。	・地域需要に見合った路線形態 を沿線市町と協議し、利便性の 高い路線を目指す。

※生産性向上の取組については別紙「地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(様式1-5-2)」を参照ください。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 3年 1月 日

協議会名：	山形県地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本県では、総人口が減少する一方で65歳以上の高齢者数が年々増加する中、平成29年3月の改正道路交通法の施行を契機に自動車運転免許の返納も増加傾向にあるなど、移動手段を公共交通に頼らざるを得ない、いわゆる交通弱者が増加することが見込まれている。</p> <p>一方では、学校、病院、行政機関の再編統合、郊外型大型店舗の進出に伴う地元商店街の衰退等により、県民の生活圏が拡大しており、地域間幹線系統のバス路線は、通院、通学、通勤、買い物等の日常生活を行う上で不可欠な移動手段となっている。</p> <p>しかしながら、少子高齢化やモータリゼーションの進展等により、本県におけるバス利用者数は、この30年間で8割以上減少し、現在も減少傾向に歯止めがかからない状況にあり、バス事業者は極めて厳しい経営環境に置かれている。</p> <p>こうした中で、県民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へとつながるよう、今後とも複数市町村にまたがる広域的・幹線的なバス系統の確保・維持に努めていく。</p> <p>また、増加傾向にある補助金の抑制を図るため、バス事業者や沿線の市町村と連携し、運行の効率化のための路線の再編や便数の適正化の検討、貨客混載等による新たな収益の確保、利用者増につながるモビリティ・マネジメント等の生産性の向上に向けた取組みを推進する。</p>

生活交通確保維持改善計画

目的・必要性

県民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へとつながるよう、今後とも複数市町村にまたがる広域的・幹線的なバスシステムの確保・維持に努めていく。また、増加傾向にある補助金の抑制を図るため、バス事業者や沿線の市町村と連携し、運行の効率化のための路線の再編や便数の適正化の検討、貨客混載等による新たな収益の確保、利用者増につながるモビリティ・マネジメント等の生産性の向上に向けた取組みを進めるものとする。

評価項目

基礎データ

合併状況：平成17年度に2町が合併して庄内町、1市4町1村が合併して新鶴岡市、1市3町が合併して新酒田市が誕生し、山形県内の市町村数は44から35になっている。

人口：1,077,057人(令和元年10月末現在)

面積：9,325 km²

高齢化率：30.8% (平成27年国勢調査)

協議会開催数：協議会4回(うち書面協議3回)

事業実施主体及び補助対象系統数・車両数

【系統数】

・山交バス(株)	11系統		
・(株)新庄輸送サービス	1系統		
・庄内交通(株)	2系統	合計	14系統

【車両減価償却費車両数】

・山交バス(株)	18台(3台)		
・庄内交通(株)	1台(1台)	合計	1台(1台)

※車両減価償却費車両数の()は、当該年度に購入した車両数(内数)

定量的な目標・効果

【目標】

計画運行回数と計画輸送量を定量的な目標に設定

【効果】

地域間幹線系統路線における移動機会の確保と利用者数の維持と定量的な事業目標を導入することにより、運行費用を抑制や効率的な運行を促進し、適切な受益者負担やサービス水準へ誘導することが期待できる。

前回の事業評価結果及びその反映状況

【前回の事業評価結果】

自己評価のとおり

【反映状況】

- ・利便性を高めるため、路線再編及びダイヤ改正を実施
- ・観光需要取り込みを目指し、沿線に観光地や温泉施設がある系統で企画乗車券の販売を実施
- ・沿線の地域や学校においてモビリティ・マネジメントを実施

評価項目

改善のための事業実施の概要、実施状況

【事業実施の適切性】

全ての系統において、計画通り実施された。

【改善のための事業実施の概要】

- ・利便性を高めるため、路線再編及びダイヤ改正を実施
- ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る
- ・沿線の観光施設と連携した取組みの強化
- ・観光利用の促進強化

【改善のための事業の実施状況等】

- ・利便性を高めるため、路線再編及びダイヤ改正を実施
- ・系統番号(行先番号)を導入
- ・バスロケーションシステムの導入
- ・沿線の病院・スーパー・学校等の施設でのPR
- ・貨客混載の実証実験の継続

目標・効果の達成状況

【目標・効果達成状況】

A評価 3系統 B評価 8系統

3系統が目標を達成できたが、他の系統においては、新型コロナウイルスの影響に伴う休校、外出の自粛により輸送量の目標を達成できなかった。

【目標(指標)及び評価基準】

- A: 目標を達成した(する見込み)
- B: 目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)
- C: 目標を達成できなかった(達成できない見込み)

事業の今後の改善点

- 引き続き、新型コロナウイルスへの対応も含め、地域間幹線系統の確保・維持のため、事業者、県、沿線市町村の連携のもと、生産性向上に向けた取組みを推進する。
- 具体的な取組みは、観光客の取込みのための企画乗車券の販売、沿線住民の利用促進と潜在的な需要の掘り起こしのための啓蒙活動、利用しやすい運賃体系の導入(交通系ICカード) など